

## 「聖和1周年特別50日精誠」



7月3日、聖和1周年特別50日路程の出発の日に地区長を京都教会にお迎えして、京都教区7月度出発式を行ないました。その時に語られたみ言が“蕩滅復帰と氏族的メシヤ出発”というタイトルでありました。

今は、2020年の天一国完成に向けての歩みであります。神様の直接主管圏に入っています。神様の直接主管圏とは、み言の主管下で生きる時代です。原理的に生きれば発展して福を受けていきます。しかし原理から外れていくと蕩滅を受けていくのです。蕩滅を超えた時代圏に摂理的には入りませんが、しかし原理から外れると蕩滅を受けていきます。その事に対しては自分で責任を持たなければなりません。

神様は、み言でもって天地を創造され、み言によって成長して、最後に愛でもって主管されていかれます。創造原理の根本は授受の法則です。為に尽くせば相手から尽くされていき、与えていけば与えられていきます。そして、より高次元的に為に生きるように創造されているのです。個人は家庭の為に、家庭は氏族の為に、氏族は民族、そして国家、世界、神様の為に生きていくようになっています。また、創造原理のもう一つの根本は、喜びです。喜びと感謝が原理的な生き方です。我々の人生の目的は三大祝福実現を通して神様に喜んでいただくことです。これによって天が祝福して下さるのであります。そして、復帰原理の中で最も重要な法則は、蕩滅法です。蕩滅復帰の摂理は、期間があります。時の時に中心人物が天に条件物を捧げて、神様が運行する基台を立て、地を動かしていくのであります。

中心人物の決意によって人と万物は集められてきます。蕩滅条件を立てる中心人物が天の前に真っ直ぐと立つことによって霊界が整理されて、“環境創造”とお母様が言われた如くに必要なものが呼び集められてきます。完全に主体が立てば、対象が創造されるのが原理です。また、その主体はより主体の前にはマイナスにならないと主体の位置に立てません。天の父母様の前には対象圏の位置に立つこそ、自分が氏族の前には、より主体の立場に立ち、そこを主管して再創造の道が開かれていくのであります。

本教会の礼拝に初めて参加された方を心から歓迎いたします  
神様と真の御父母様の祝福が共にありますよう。お祈り致します

- 1、お誕生日を迎えた食口の皆様、おめでとうございます。
- 2、2013年伝道勝利のための「第3次50日路程」が行われています。  
期間:2013年7月2日(火)~8月20日(火)【50日間】  
スローガン:「新氏族メシヤ活動の定着と爆発的伝道」
- 3、真の父母様聖和一周年記念100日精誠祈禱会が行われています。  
期間:天曆4/7~7/17(陽曆5/16~8/23) 21:00~22:30
- 4、2020勝利の為の第9地区壮年部出発式  
日時:7月14日(日) 17:00~19:00 場所:大阪教会 3F
- 5、伝道3日路程  
7月16日(火)~18日(木) 全食口同参
- 6、京都教区祝福式  
日時:7月21日(日) 14:00~ 場所:京都教会
- 7、日本文化講演会  
日時:7月24日(水) 10:30~  
場所:サン・アカデミー京都
- 8、カップルセミナー  
日時:7月28日(日) 10:30~16:00  
場所:ホテル京都エミナース
- 9、女性のための理想家庭講座  
日時:7月29日(月) 10:30~15:00  
場所:京都教会
- 10、京都を愛する書写の会  
日時:7月30日(火) 10:30~ 場所:京都教会
- 11、「真のお父様聖和1周年追慕礼拝」(仮称)行事と「清平大役事」  
【日程】Aパターン:8月22日(木)~8月24日  
Bパターン:8月22日(木)~8月25日又は26日帰国  
※Bパターンは、「真のお父様聖和1周年追慕礼拝」終了後から「清平大役事」のスケジュールになります。
- 12、京都セミナー(二日修練会)  
日程:7月20日(土)・21日(日)  
場所:サン・アカデミー京都  
【1日目】13:30~20:00(13:00受付)  
【2日目】10:00~16:00(9:30受付)
- 13、しあわせ講演会  
毎週金曜日 10:30~、14:00~ 場所:サン・アカデミー京都
- 14、教区全体特別精誠祈禱会  
毎週金曜日 21:00~
- 15、神様摂理史の責任分担解放圏完成宣布教育  
日程:8/9(金)午後4時~8/13(火)正午  
※8月度をもって宣布教育としての修練会は終了となります。
- 16、清平修練会  
7/20(土)~7/22(月)、7/26(金)~7/28(土)  
(霊肉祝福式) (霊肉マッチング)

## 【年頭標語】

天地人真の父母勝利解放完成時代

天地人真の父母勝利解放完成時代



## 京都教会

Holy Spirit Association For Unification  
of World Christianity Kyoto Church  
世界基督教統一神霊協会

教区長: 武藤 努 牧師

京都市右京区西院西高田町6

Tel: 075-313-0539 / Fax: 075-325-2712

E-mail: son\_e2013@angel.ocn.ne.jp

京都HP: <http://www.uckyoto.org/>

## 式次第



執礼者：武藤努教区長

開 会	.....	司会者
黙 禱	.....	全 体
※開会讃頌	..... 聖歌 4 番 .....	全 体
※敬 拝	.....	全 体
※家庭盟誓	.....	全 体
代表祈祷	.....	
讃 頌	.....	聖歌隊
み言訓読	.....	全 体
説 教	聖和1周年特別精誠の主役となろう	
※讃 頌	..... 聖歌 39 番 .....	全 体
※祝 禱	.....	教区長
※全体祈祷	.....	全 体
教会音信	.....	司会者
閉 会	.....	司会者

～お願い～ ※印のある項目は、全員起立して進行いたします

『 生めよ、殖えよ、地に満ちよ 』

## 今週のみ言

我々が暮らしている社会、国家、世界は、自分の意志に符合する環境になっていないので、すべての苦衷が生じるのであり、善悪の分岐点が重なり合っています。百人なら百人、全部が各々自分なりの一日の生活を営むために、環境と闘争しており、環境を押し進んでいます。それゆえ、朝に計画した一日の仕事を、誰も自信をもつことができないことを、我々は一日の生活の中でよく感じるようになります。その上に、その環境の範囲が大きければ大きいほど、自身の一日の生活を勝利として結果づけるためには、それに比例して、決意と推進力をもたなければなりません。そうでなくては、その日が勝利の日になり得ません。そのような一日一日が加わって、ひと月になるのであり、ひと月ひと月が加わって一年になります。

そのひと月も、我々が計画したとおりに暮らすことができる環境になっていません。我々が、ひと月の勝利をもたらすためには、そのひと月の環境に備わった複雑なすべての事情、すべての与件を打破することができる推進力と決意がなければなりません。それがなくては、ひと月の計画を勝利として終えることができないのです。

一年を押し進めるためには、三百六十日を克服することができる闘志力、あるいは推進力を備えなければなりません。そうでなくては、一年を勝利で飾ることができません。このような一年に十年が加わって、二十年、あるいは三十年が加わった日々を過ごしているのが、我々の人生の道です。



(「地上生活と霊界」より)

## 統一運動

天父報恩鼓が石巻で慰問コンサート

統一教会平和奉仕ボランティア隊(UPeace)の被災地支援活動の一環として、6月29～30日の2日間、千葉市周辺の教会に所属する二世の子供たちによる「天父報恩鼓(てんぷほうおんこ)」が、宮城県石巻市内の2か所の会場で慰問コンサートを行いました。

「天父報恩鼓」は、2000年に結成された創作太鼓のチームで、全国に40の協議会と約1,000名の会員がおり、沖縄の伝統的な“エイサー太鼓”を若者たちの自由な発想でアレンジし披露。これまでに様々なイベントに出演しています。

今回は、小学生6名、中学生7名、大学生3名の計16名によって構成された「天父報恩鼓」の千葉協議会が、被災地の復興を祈念し、“家族愛”をテーマに公演を行いました。

29日の早朝に千葉を出発したメンバーたちは、昼前に宮城県牡鹿郡女川町に到着。高台にある医療センターなどを見学し、慰霊碑の前で哀悼の祈りを捧げる時間をもちました。

午後4時からは石巻市内のグループホームで、約30名の入居者の方々を前に迫力ある演舞を披露しました。公演の途中、メンバーによる手作りうちわのプレゼントや、入居者の方々に実際に太鼓を叩いてもらうなど交流の時間もありません。

子供たちとの交流に涙を流される方もおられ、公演後、グループホームの代表者からは「(皆さんの)パワーをもらって、私達も元気になりました！」と感謝の言葉を頂き、入居者の方々からも「本当に良かった！」などの感想が聞かれました。

30日の午前中は、石巻市内の『がんばろう！石巻』の看板のある場所を訪れ、全体で祈りを捧げた後、現地の方から震災当時の話を伺うことも出来ました。

正午からは、石巻市内の「石巻まちなか復興マルシェ」という屋外の会場で『復興祈念公演』を行い、会場に詰めかけた約50名の観客を前に、アンコールを含め全9曲を披露し、代表的な「ソーラン節」では会場も大盛り上がりとなりました。

統一教会平和奉仕ボランティア隊では、今後も継続して被災地でのボランティア活動を行いながら、今回の「天父報恩鼓」のように音楽などの文化活動を通じて、被災された方々のお力になれるよう取り組んで参ります。

被災地のさらなる復興を心からお祈りいたします。

